

平成27年度第5回ユニット型特養運営推進会議 施設長 係長 主任

- ① 日時 平成28年1月19日(火曜日) 14時00分～15時00分
② 場所 伯寿の郷面談室
③ 参加者 飯橋艶子様、秦和男様、小松原祐二様、河野有香様、高木肇様、永井清美様
仲佐係長、谷上相談員
④ 書記 谷上

(内容)

1. 地域交流について報告

地域交流について、谷上相談員より報告を行う。今回は家族会について、マジックシンガーショー、安田小学校との交流について報告を行う。説明後、入所者代表、飯橋様に意見を伺う。

飯橋様「みなさんによくして頂いております。食事もおいしいです。」飯橋様は体調を考慮し、途中退席とする。

2. クレームについて

表題の件について、仲佐係長より説明を行う。今回は11月に起きた1件のクレームについて。内容は、ユニット入所者のご家族様より、入所者宛に届く郵便物の取り扱い、使用している車イスの空気圧、汚れについて。

3. 内部研修報告について

表題の件について、谷上相談員より報告を行う。10月「福祉用具」、11月「ノロウィルス予防、対策」、12月「事故、ヒヤリハット報告」の3回について報告を行う。

4. 広報つぼみについて

表題の件について、仲佐係長より報告を行う。今回の会までに作成が間に合わず、次回の会にて報告を行う。

全ての議題の説明が終わった時点で、参加者より、意見を頂く

秦様「クレームの郵便物の件ですが、施設入所しているのので、郵便物を確認して頂く事に私はすんなり同意しています。対応に納得がいかない場合は、自宅に届くような手続きも出来ますし、施設の対応としては良いのではないのでしょうか。」

仲佐係長「施設で必要な書類に関しては、各種資格の更新の手続き等の書類です。必要のないものについてはご家族様に毎月の請求書と一緒に送り返しています。」

小松原様「クレームについてですが、車椅子の空気はパンパンに入っていた方が良いでしょうか。ご利用者自身が、車椅子の不調について訴えることがありますか。」

仲佐係長「その方に合った対応をしていますが、空気圧が入りすぎていると、滑りやすいといった事もあります。自分で車イスの不調を訴えられる方は少ないですね。」

秦様「マジックシンガーショーは私も楽しませていただきました。入所者の方全員が参加されたのでしょうか。」

仲佐係長「私も当日参加はしておりませんが、手品や大道芸ショー等をしていただき、とても好評でした。全員ではありませんが、当日多くのご利用者に参加して頂きました。このように外部から来て頂く機会はとてもありがたく、皆さんの知り合いで外部から、ステージショーをしていただける方がいらっしゃったら、ご連絡頂けると喜びます。」

小松原様「質問ですが、入所されている方は、皆さん安来の方ですが、それとも県外からも入所できるのでしょうか」

高木様「ユニット型に関しては地域密着型となっており、小規模でかつ家族的なケアが出来る特徴があり、原則安来市に住民票がある方が対象です。また、地元がこちらで結婚等で市街に出た方などで、地元の特養を希望される方もいらっしゃいます。そういう方に関しては住民票を移動して3か月を目安に入所ができるようになっています。従来型に関してはどの地域から入所していただいても構わないのですが、実際は近隣の方が入所されていることが多いです。市内に4カ所特養がございますが、4カ所に併願して申し込みをされる方が多くおられます。クレームに関しては、谷上さんがおっしゃるように、契約時にきちんと説明し、同意を得る対応で良いと思います。小学校との交流に関しては3年生の時から続けていく事が良いですね。地域社会の一員としての福祉教育がなされていると思います。」

小松原様「他の小学校の交流はどうでしょうか」

高木様「せんだん会のグループホームきずなは、隣にある保育所との交流を行っていると聞いています。しかしこの様に継続して交流をすることは良いと思います。」

永井様「小学校だけでなく、中学校の職場体験もありますよね。」

小松原様「私たちの小学校時代にはもちろんこのような交流もありませんでしたし、お年寄りに対する考え方も大きく違っていました。今の子ども達は、自分の方からお年寄りの方に自然と近寄っていて、子どもの時からの経験はとても大切だと思います。同和教育についても大人の頭はなかなか考え方を切り替える事が難しいですが、子どもの時から教育を受けていると違いますね。教育は地域がサポートするともっと良くなると思います。」

秦様「子ども達はとても熱心ですよ。」

仲佐係長「子ども達のお年寄りの方との関わり方も変わってきました。今後の人生の選択の上で、この経験が良い判断材料になってくれると良いと思います。」

谷上相談員「施設という場所は、なかなか用事がないと足を運ばないと場所というのが現状ですが、その敷居を少しでも下げることが出来れば、地域の方の理解もより進んでいくのではないかと考えています。そのためにも、こうした交流活動は今後も積極的に行っていきたいと思います。」

永井様「質問ですが、夜勤は何名でされていますでしょうか。夜間は利用者の方も活動されていないので、動きも少ないのでしょうか。」

仲佐係長「夜勤は介護職員3名で行っています。認知症の方が増え徘徊などの行動が進めば、夜間の活動量も増えることもあるかと思います。」

河野様「毎回、職員研修がとても良いと感じ、研修を受ける職員の意識も進んでいると思います。そのことが毎回の参加者数にあらわれているのではないのでしょうか。第一病院では認知症についての研修を受けてきた職員が、復命研修の様な形で、内部研修をされたと聞きました。」

高木様「総合福祉専門学校との連携を強化していく事が良いと思います。学生をもっとボランティアとして活用したり学校の講師を活用し座学を行う等、地域の社会資源を活用して基礎からの学び直しもとても大切だと思います。次回は公務のため欠席させていただきますが、できれば代理のものを立てたいと思います。」